



全国学力・学習状況調査の結果について

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の本校の結果についてお知らせします。

全国学力・学習状況調査は、教科では国語と算数、それに生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査があります。国語と算数はそれぞれ、主として「知識」に関する問題（A問題）と、主として「活用」に関する問題（B問題）に分かれています。

本年度の6年生の特徴は、正答数分布グラフを見るとコブが3つあることです。上位のコブは全国の山の頂点とほぼ同じ得点です。全国のグラフは頂点からなだらかに下っていきませんが、本校のグラフはさらに低位と最低位にコブがあります。全体をならずと平均正答率は全国と同じかやや低い程度ですが、特に低位のコブに属する児童の学力を高めることが課題です。

問題別に少しくわしく見てみます。国語は、漢字（読み書き）は、全国に比べてよくできました。その他の問題は、全国平均とほぼ同じレベルでした。

算数は、A問題もB問題も全国平均よりやや低いレベルでした。A問題では、「 $6 + 0.5 \times 2$ 」を「13」と解答した児童が約3割いました。また、「単位量いくつ分」という比べ方をしているものを選ぶ問題で、「鉛筆の端を揃えて立て、どちらの鉛筆の先が高いかで比べる」を選んだ児童が約3割いました。一方、立方体の展開図や二次元表をつくる問題は、全国平均より約10ポイントも高い正答率でした。

B問題では、問題文（表）と式を比べ、式の中の数が問題文（表）の何を表しているか答える問題で、正解した児童が3割に達しませんでした（全国平均は約4割）。

国語の読み取りの力については、算数の問題文と式とを対応させながら考えていく習慣を付けることが重要だと感じました。

質問紙調査で気になるのは、「普段、テレビ・DVD・ゲーム・スマホやインターネットなどに使う時間が多い」ということです。こうしたことに一日3時間以上使っている児童が約4割（全国約3割）います。家庭学習の時間は全国とほぼ同じですが、家庭での時間の使い方を工夫する必要があるかも知れません。

また、「携帯電話やスマートフォンを持っている」と答えた児童は7割弱ですが、「使い方について家の人と約束していない」児童が約2割いるということです。携帯電話やスマートフォンを持たせる場合は、保護者の責任で持たせ、フィルタリングをしたり使い方の方の約束をしたりするなど、その責任を果たしていただきたいと思います。



質問紙調査に見られる本校児童のよいところはたくさんあります。「当てはまる」という回答が全国平均と比べて多かった質問項目を書きます。「学校の授業の予習、復習をしている。」「学校に行くのは楽しい。」「学校で友達に会うのが楽しい。」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」「地域や社会をよくするために何をなすべきか考えることがある。」「新聞を読んだり、ニュース番組をよく見たりする。」「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたい。」「学校のきまりを守っている。」「人が困っているときは、進んで助ける。」「人の役に立つ人間になりたい。」そしてもう一つ。「算数の勉強は好き」と答えた児童が約8割。これは全国平均と比べても約20ポイント近くも多い数です。この気持ちを生かして、算数の学力を高めていきたいと思います。